

3 高等学校外国語科へのつながり

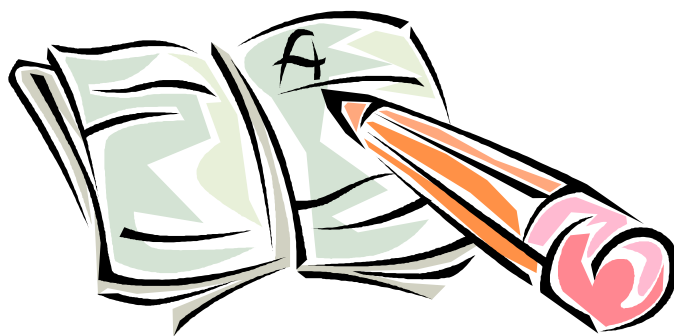
中学校・高等学校での外国語(英語)教育においては、4技能を総合的に育成する指導を充実することが求められています。「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することができる外国語(英語)によるコミュニケーション能力を伸ばすための授業づくりが必要です。

ここでは、中学校教師が、生徒の高等学校進学後の外国語(英語)学習を見通した上で、中学校での指導を考えることができるよう、高等学校外国語科の概要について述べます。

(1) 外国語科の目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。(高等学校学習指導要領 第2章 第8節 第1款)

この高等学校外国語科の目標と中学校外国語科の目標を比較してみましょう。「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り」という部分までは、同じ表現が用いられており、外国語(英語)教育の目標が中学校から高等学校まで貫かれていると言えます。その後の表現は、中学校では「聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」とあり、高等学校では「情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」とあります。中学校における学習の基礎の上に、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4技能を総合的に育成するための統合的な指導を行い、生徒のコミュニケーション能力を更に伸ばすことが大切であるとされているのです。



(2) 必修科目「コミュニケーション英語Ⅰ」

高等学校外国語科において、英語を履修する場合に、すべての生徒に履修させる科目です。科目の目標は次のとおりです。

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

(高等学校学習指導要領 第2章 第8節 第2款 第2)

この科目では、中学校におけるコミュニケーション能力の基礎を養うための総合的な指導を踏まえ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4技能を総合的に育成するための指導を行います。特に、聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりすることや、簡潔に書くことなどの統合的な言語活動が行われることが求められます。

指導する語は、「中学校で学習した語に400語程度の新語を加えた語」とされています。これは、指導する語の上限を示すという趣旨ではありません。活用形を全体として1語と数えたり、派生語をまとめて1語とすることもでき、中学校で学習した1,200語程度の語に400語程度の新語を、コミュニケーション英語Ⅰで学ぶこととなります。

文法事項については、中学校において指導された文法事項についても必要に応じて繰り返し扱いながら、高等学校で新たに示されているものについて指導します。文法はコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連付けて指導することが求められるのは、中学校での指導と同じです。新たに扱う文法事項は次のとおりで、ここに挙げたすべての文法事項は、コミュニケーション英語Ⅰで適切に扱うこととされています。

◎不定詞の用法(原形不定詞の用法など)

- I saw Jane's children playing outside late at night the day before the big test. I think she should **make them study**, but she **lets her children do** what they want to.
- Mary was taken to the hospital yesterday after work. I **heard her say** that she was tired, but I didn't realize it was so serious.

◎関係代名詞の用法(先行詞を含む関係代名詞whatや非制限的用法など)

- A small girl came to the store to buy ingredients for miso soup. She wanted to make it for her mother. I sold her **what** she needed.
- Have you seen my new car, **which I bought last week**? It is the silver Honda in the parking lot.

◎関係副詞

- Can you tell me a day next week **when** you will be free?
- I know a field near Shizuoka **where** you can find wild strawberries.

◎助動詞(過去形, 助動詞を含む受け身表現, 助動詞と完了形を用いた過去に関する推測の表現)

- She **could** read *Thomas the Train* when she was four years old.
- Your life **might be changed** by this book. It has great ideas for saving money.
- “We went to Rome last month. We rode scooters around, saw the coliseum and ate so many different types of Italian food.” “That **must have been** nice. Now I want to go.”

◎代名詞のうち, itが名詞用法の句及び節を指すもの(itを形式的に主語として用いるもののうち, itが名詞用法の節を指すものや, itを形式的に目的語として用いるもののうち, itが名詞用法の句及び節を指すもの)

- There is a powerful cold front coming in from the west. **It** is probable **that** there will be very high wind.
- I found **it** easy **to talk** to her. She listens carefully to everything I say and always smiles so I feel very comfortable.

◎動詞の時制など(現在完了進行形, 過去完了形など)

- I **have been working** all day. I started at 7:00 AM and it's already 9:00 PM. I really want to finish the project today.
- When the principal started talking about the new government policies in education, I realized that we **had met** before. At first I didn't recognize her, but I remembered that I **had had** the same conversation with her.

◎仮定法

- If I **were** you, I would stop smoking. It makes you get old faster and the risk of cancer is too high.
- You learn things very easily so I'm disappointed that you failed. If you **had worked** harder, you **would have passed** the exam.

◎分詞構文

- While I was reading this morning, I heard something outside. **Putting down my newspaper**, I walked over to the window. Then, I saw the most beautiful blue bird I have ever seen.
- I heard a child in the apartment screaming for 10 minutes. He sounded like he was hurt and scared. **Not knowing what to do**, I called the police.

(3) 具体的な活動

英文を和訳することや、文法について説明することに偏りがちであると言われていたこれまでの授業は、学習指導要領でも改善の方向性が明確に示され、例えば、次のような単元構想で授業が行われます。

◎教材 A Mug Is Not a Cup (NEW STREAM English Course I , Lesson 5, ZOSHINDO)

◎教科書本文の大意要約

(Part1)

日本での生活には和製英語が氾濫している。例えば、ヘルスマーターという単語を初めて聞いたときには、病院で使われているハイテク医療機器のようなものをイメージしたので、それが単にバスルーム・スケール(体重計)のことを指していると知ったときには驚いた。

(Part2)

マグカップという和製英語にも混乱した。英語では、カップという言葉が指すものは、小型で受け皿付きのものである。ティー・カップやコーヒー・カップを思い浮かべてもらえばよい。マグとは、もっと大きめのしっかりしたもので、受け皿なしで使われるものである。両方とも飲み物を飲むのに使うという点は同じだが、カップはカップ、マグはマグであり、マグカップとは言わない。

(Part3)

キッチンペーパーという言葉も和製英語である。これは英語では、買い物リストや引き出しにあるメモ用紙のような、台所にある紙、という意味になる。キッチンペーパーなる和製英語は、正しい英語ではペーパー・タオルと言う。

◎評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語・文化についての 知識・理解
和製英語をテーマに、積極的なコミュニケーションを図ろうとしている。	和製英語の使用に関する自分の意見を、分かりやすく伝えることができる。	和製英語の抱える問題点を、整理しながら読み取ることができる。	和製英語を標準英語に言い換えることができる。

◎指導計画

(1) 単元全体への導入

身近にあるJapanese-Englishを紹介する。下記の表現について、実物やイラスト、写真を提示し、それが何かを尋ね、生徒が和製英語で答えた場合には正しい表現を示す。

- ① sharp pen, Hotchkiss, magic ② fried potato, American dog, choux cream
③ jet coaster, TV game, wide show

(2) 生徒同士が英語でコミュニケーションする活動

導入で用いたJapanese-Englishを利用し，3人1組のスキット形式で，間違いを指摘・修正しあう。

①では，言い慣れることを優先し，パターンに当てはめる。

A: Do you have a Hotchkiss?

B: A Hotchkiss? What is that?

C: (whispering to A) Hotchkiss is Japanese-English. You should say “stapler.”

A: I see. Do you have a stapler?

B: Oh, a stapler! Yes. Here you are.

②では，最後に一言，自分の意見を付け加える。

A: I want to eat an American dog. Do you know any good shops?

B: An American dog? What is that?

C: (whispering to A) American dog is Japanese-English. You should say “corn dog.”

A: I see. I want to eat a corn dog. Do you know some good shops?

B: Oh, a corn dog! Sorry, I have no idea / I recommend George's.

③では，自分の考えを伝え，それに対する相手の意見を聞くことで，会話を発展させる。

A: I like jet coasters very much. B: Jet coaster? What is that?

C: (whispering to A) Jet coaster is Japanese-English. You should say “roller coaster.”

A: I see. I like roller coasters very much.

B: Oh, really? Me, too. I think FUJIYAMA in Fuji-kyu High Land is the greatest. How about you?

(3) Part 1より，必要な情報 (=health meterという和製英語が不適切である理由)の入手

First reading: Find Japanese-English terms and its correct name.

JE term: health meter ⇔ correct name: bathroom scale

Rereading 1: Find the image the name “health meter” gives to the author.

-- high-tech device that you might see in a doctor's office

-- something in a hospital

Rereading 2: Find the functions a health meter is expected to have.

-- to check the percentage of body fat or blood pressure

(4) Part 1本文の音読

(5) Part 2, Part 3より必要な情報(=mug cup及びkitchen paperが不適切である理由)の入手

First reading: Find a Japanese-English term and its correct name.

mug cup(s) ⇔ mug(s) or cup(s) kitchen paper ⇔ paper towel(s)

Rereading 1: Clarify the difference between cups and mugs.

cups: small and with saucers mugs: bigger, heavier and without saucers

Rereading 2: Find what is wrong with the name “mug cups.”

-- *Both are used for drinking, but it can't be both.*

-- *There is a clear difference between the two.*

Rereading 3: Find the image the name “kitchen paper” gives to the author.

-- *paper that happens to be in the kitchen (and is used for shopping lists and things like that)*

(6) Part 2, Part 3本文の音読

(7) 本文から入手した情報を参考に、自分の考えを表現する活動

Expressing yourself 1

Using the information from the text, explain why the three Japanese-English terms are inappropriate in your own words.

health meter ⇒ *too high-tech, excessive advertising*

mug cup ⇒ *incompatible combination*

kitchen paper ⇒ *meaning something different*

Expressing yourself 2

Choose one of the Japanese-English terms you know and explain how that term would be misunderstood by native speakers of English.

(8) 単元目標の達成を図り、達成度を測るためのコミュニケーション活動(=タスク)

「Japanese-Englishを、正しい英語だと思い込んで使用している友人に対し、それがどのような意味に解釈されるか、それがどのような印象を与えるか等について説明し、適切な表現に言い換えるよう促す」という想定のスキットを、3人1組で創作し、実演する。登場人物も3人とする。

外国語(英語)科の各科目の特質は、科目の目標が言語に関する技能そのものの習得であるということです。技能の習得には、実際にその技能を練習し、使ってみることが不可欠です。しかしながら、生徒の日常生活において外国語を使用する機会は非常に限られたものでしかありません。これらのことを踏まえて、ここで述べたような授業を行い、授業そのものを外国語(英語)を使う機会にすることが求められています。外国語(英語)によるコミュニケーションを体験できる授業づくりをしていくことは、小学校外国語活動から中学校での外国語学習へ、中学校での外国語学習から高等学校での外国語学習へと引き継がれているのです。

